



# なかすぎ

## —杉並稲門会 第4ブロック報—



Vol. 2

杉並稲門会第4ブロック会員の皆様へ

第4ブロックの広報紙「なかすぎ」第2号をお送りします。今回より両面を使用し、1面には4ブロックの3～8月の催事や新入会員の紹介などを、2面には様々な方面で活躍されている4B会員のプロフィールや活動状況などを掲載します。また、会員相互の情報交換の欄も設けましたので、ご活用ください。拙い編集ですが皆様のご理解が深まれば幸いです。

### 第41回・42回懇親会

第41回懇親会は3月1日(金)に「中国飯店・天源」で開催した。ゲストの方8名を含み総勢52名の参加者があり、広い会場が熱気に包まれた。最年長で1951年卒の秋本信行さんのお元氣な話で会は一気に盛り上がり、最後のビンゴゲームまで楽しい歓談が続いた。特筆されるのは122名の会員の内、100名の皆様から出欠のご返事をいただいたことです。本部では会員になっていても稲門会の活動には関心のないスリーピング会員が問題になっていますが、4Bの活動の活発さ証明されたと云えます。



杉並稲門会 第4ブロック第41回懇親会 平成25年3月1日 ー天源ー

第42回懇親会は「暑気払い会」として7月21日(日)に自家醸造装置を持つビアホール「阿佐谷麦酒道場」で日曜の夕方に開催した。これは仕事があり平日では参加が難しい方が増えていることに配慮した新しい試みだ。他ブロックの方にはゲスト参加の呼びかけはしなかったが、43名の参加があり大成功だった。堅苦しいスピーチなどは止めにして美味しい地ビールを飲んで愉快地歓談する主旨でスタート、4B以外で唯一人特別参加していただいた久保田新会長の乾杯の音頭直後から話に花が咲いた。年に一度は土・日にこのような気さくな会を開いていく予定です。



杉並稲門会 第4ブロック第42回懇親会 (平成25年7月21日) ー阿佐谷麦酒道場ー

【次回予告】既にご案内している通り第43回懇親会を9月6日(金)18:00から「中国飯店・天源」で開催します。12月にも開催予定です。

### 第8回社会見学ツアー

第8回社会見学ツアーは5月13日(月)に千葉のベイエリアにある「東京ガス袖ヶ浦工場」と「新日鐵住金君津製鐵所」の見学を中心として実施された。どちらも個人では見学が困難な工場だが、東京ガスは真下・牛山両氏(共に4B)、新日鐵は竹田氏(2B)と両社OBの方のご尽力があり、普段は見られない場所を案内してくれるなど丁重に対応していただいた。中でも東京ガスでのマイナス162度のLNG実験や巨大貯蔵タンクの見学、新日鐵での銑鉄が流れ落ちる高炉や熱気が伝わる圧延行程見学は特に印象が深かった。また、昼食の富津名物「穴子料理」と「富津公園」や「アクアラインと海ほたる」での観光が絶妙に組み合わせられており有意義で楽しいバスツアーとなった。



第8回社会見学ツアー 平成25年5月13日(火) ー新日鐵住金君津製鐵所ー

新日鐵住金で防護服を着用した47名の参加者

【次回予告】10月8日(火)に静岡の食品工場と世界遺産・富士山を巡るバスツアーを実施します。

### 一金会

毎月、第一金曜日の5時から開催している気さくな談話会「一金会」は4月5日、5月10日、6月14日、7月5日、8月2日にレストラン「遊遊」で行われ、10名前後の会員が集まりました。参加申込不要、何時に参加されても自由な会ですが、他の行事と重なると開催日変更や中止になる場合があります。参加される方は本部HPをご覧になるか、世話人の井口さん(03-3223-6990)に連絡ください。「遊遊」阿佐谷北1-5-16 ☎03-3336-7880

### 【お知らせ】

☆新入会員:平田律子さん(1969年教育卒)が5月に、浅田恭子さん(1995年文卒)が6月に、篠嘉子さん(ファミリー会員・篠紘弥氏夫人)が7月に入会されました。  
☆新幹事:5月25日の杉並稲門会総会で4Bより佐治恵子さん(1968年文卒)と祝裕太郎さん(1969年教育卒)が新しく幹事に就任されました。副会長を長年務められた山口治夫さんは(1955年法卒)は顧問になりました。  
☆新世話人:8月に中川修一さん(1973年政経卒・阿佐谷北)が新しく4B世話人になりました。

## 【会員インタビュー】佐治恵子さん

### 一幹事就任を機会に被災地支援ファンドなどを聞か

[佐治さんと聞くとサントリーを連想しますね]

よく云われます。サントリーの佐治さんとはまったく関係がありませんが、初対面の方に名前を覚えてもらう時には便利なので利用させていただいています。

[どのような大学生活を過ごされましたか]

普通の学生でしたよ。サークルは商業英語研究会(BEA)に属して、会の仲間とはよく遊びました。杉並稲門会幹事長の加藤健さんはサークルの先輩です。

[卒業後は英語力を活かした仕事をされたのですか]

特に英語関係を意識した理由ではありませんが、最初はインターナショナルな業務をしていたPR会社に就職し、その後は外資系の広告代理店で長く仕事をしていました。

[多趣味とお聞きしていますが]

在職中はあまり時間がなかったのですが、リタイアして少し余裕ができました。稲門会では「カラオケの会」「クラシック音楽愛好会」「食歩きの会」で、皆様とご一緒させていただいています。最近、前から興味があった書道を始めました。多趣味ではありませんが色々楽しんでます。



気仙沼港でサンマ船の出船送りイベントに参加した佐治恵子さん

[ところで被災地支援ファンドに関係されておられるとか]関係しているといっても一投資者の立場でしかありませんが、何かの役に立ちたいという思いから参加しています。

[被災地支援と云うと、まず寄付が思い浮かびますね]

寄付は大切なことだと思います。ただ杉並区の南相馬への支援など援助先を絞り込んだ寄付は別として、一般的には寄付金の使い方が見えないと感じていました。それと時間が経つにつれ、本当に大切なことは毎日仕事ができ、生きがいを感じられる日常生活を取り戻すことにあるのでは、との思いが強くなりそんな支援策を探していました。

[そこで被災地支援ファンドに巡りあった]

報道でこのファンドを知りすぐに申込みました。このファンドは震災で壊滅的な被害を受けた企業を支援して長期的に見守りながら事業と雇用の回復をサポートする点が素晴らしいと感じました。

[ファンドの仕組みを教えてください]

1口1万円のファンドで被災した事業者へ個別に投資します。投資先は漁業、水産加工、食品、醸造業など多岐にわたっています。1万円の内、5千円は寄付で残りの5千円が投資金額になります。また、ファンドの管理会社の手数料が500円です。元本保証ではありませんが投資した企業が立ち直って利益が出るようになれば配当があります。ただ、それを期待するよりはむしろ罹災した企業を応援し共に育てていく新しい支援の仕組みとして投資に参加している方が多いですね。

[ファンドをもっと詳しく知りたい方は]

もともとミュージシャンの自由な音楽づくりを支えるというコンセプトで設立された若い社員が活躍する会社「ミュージックセキュリティーズ」が復興のために何かしたいと考え、このファンドを立ち上げました。詳しく知りたい方はネットで「セキュリティ被災地応援ファンド」を検索でご覧になれます。

[ファンドを利用して良かったと思われることは]

どの企業も事業の再興に懸命にがんばっており、メルマガなどでその様子を知らせてくれます。投資家特典として礼状を添えて海産物などが送られてきます。もらって嬉しいと共にそこまで立ち直ったと体感できるのが嬉しいですね。

[被災地にはよく行かれているようですね]

まずは被災地を自分の目で見なければ、との思いで訪れている内に知り合いもでき、投資先企業への応援ツアーなどで足を運んでいます。「来てくれるだけで有り難い。忘れられるのが一番辛い」との言葉に背中を押されています。

[最後に稲門会の幹事になられた抱負を]

就任し企画担当になったばかりで何もわかりませんが、お役にたてるようがんばっていきたくと思います。

(8月10日取材・取材者:柄谷隆宏・田村純利)

## 中島峰広先生の講演会

新村康敏さん(1B)が主宰される杉並郷土史学会の講演会で6月15日に早稲田大学名誉教授で棚田の研究では日本の第一人者の中島峰広先生(4B)がお話をされました。

この講演は「原風景としての棚田—その魅力・起源・役割と保全」をテーマとして棚田の歴史・地域別の特徴・現状などを分かり易く説明していただきました。棚田で作った米の美味しさは知っていましたが、大雨の時



講演中の中島先生

に天然のダムの役割をする防災効果や日本古来の生物体系を守る自然保護効果については初めて知りました。講演のまとめとして先生が話された言葉を紹介します。「棚田を守る運動は広まっているが、過酷な労働の為に棚田は年々減少している。日本の伝統農業を守る観点からだけでなく、日本の原風景を守る環境保護や自然保護の観点を併せて持ち、棚田を保全していく必要があります」

## 会員通信

水墨画の団体「日本自由画壇」を主宰されている橋本旬平さん(成田東)がアルバイトを探されています。仕事は会の事務局の通信業務や名簿整理などです。性別・年齢は問わないが、年間を通して週に2日ほど5時間程度働けるパソコンに堪能な方を希望されています。時給は1000円です。ご興味のある方は橋本さんに電話(03-5306-5146)して、お問い合わせください。

情報やご意見をお寄せください

発行責任者:第4ブロック世話人代表 服部文夫

編集責任者:柄谷隆宏 ☎03-5932-2598

メールアドレス:t.karatani@jcom.home.ne.jp

2013年8月発行